

## 1. 主体的・対話的で深い学びの成立を目指して カリキュラム・マネジメントを進める

いま学校教育は、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、子どもたちが主体的・対話的で深い学びを通して、よりよい人生や社会を自ら創り出す資質・能力を高め豊かにすることを目指している。このため、各学校はカリキュラム・マネジメントを進める必要がある。

カリキュラム・マネジメントは、学習指導要領の総則で示されているように「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上」を目指すものである。ここでいう「教育活動の質の向上」とは、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの成立を追究することととらえることができる。

学習指導要領の総則では、カリキュラム・マネジメントの三つの側面として、各学校に次のような取組を求めている。

- ① 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ② 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- ③ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

こうした三つの側面からの取組のいずれもが、教育課程の編成・実施を軸として子どもたちの主体的・対話的で深い学びの成立に焦点を結び、子どもたちの学びが変わることが重要である。

副校長・教頭は、校長と教職員とを結ぶ位置にある。副校長・教頭は、学校の教育活動と経営活動の全体にわたって様々な計画の作成と展開、組織としての機能の発揮、情報の流通などのいわば「ハブ」(中心、結節点)となる。カリキュラム・マネジメントの考え方を生かして、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの成立に力を尽くすことが期待されている。

## 2. 教科等横断的な視点から子どもたちの学びを 体系化、構造化する

主体的・対話的な学びを通して子どもたちに育成を目指す資質・能力は、学校の教育目標をはじめ全体的な目標とその実現のための具体的・個別的な目標に示される。それら相互の関係を体系的に整理する必要がある。

# 主体的・対話的で深い学びを実現する ための副校長・教頭の役割

明星大学教育学部 教授 吉富 芳正



ある。教職員がこうした目標の体系を理解してはじめて主体的・対話的で深い学びに向けた様々な工夫の方向性も明確になり、学校の教育目標の具現化につながる。

同時に、育成したい資質・能力や内容、子どもたちの活動や経験について教科等間の関係を明確にして全体を構造化する必要がある。子どもたちは、各教科等で身に付けた知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度などを総合的な学習の時間をはじめ他教科等で生かす経験を通じて、それらが生活や社会に生きて働くものだという手応えを高めるであろう。その際、教科等横断的な視点から、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成を意識したい。学校の学習活動は教科等で区分されているけれども、子どもたちは学ぶ主体は自分であることに気づき、教科等を横断して学びをつなげ自分の知識や思考などの体系を築いていく。それが「生きる力」となる。

こうした取組を進めるためには、学校全体の状況を視覚化(「見える化」)することが有効である。グラウンドデザインや単元配列表などのかたちで表現し、全教職員で共有しながら、各教科等での主体的・対話的で深い学びをどのようにつなぎ、広がりや深まりをもたせることができるか、組織的、計画的に検討することが大切である。

副校長・教頭は、常に学校の教育目標の具現化を意識し、教科等全体を見通し、教務担当の主任教諭や教務主任、学年主任をはじめ教職員を指導したり相談に乗ったりしながら、目標や内容、子どもたちの活動や経験の体系化や構造化に取り組みむことが求められる。

## 3. PDCAサイクルを循環させ子どもたちの 質の高い学びを目指す

学校の教育活動については、各種の全体計画や各教科等の年間指導計画、単元指導計画、授業の本時案など、多くの計画が存在する。それらを支える経営活動にも様々な計画がある。そうした計画について、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの成立を意識してPDCA(計画・実施・評価・改善)サイクルを循環させることによって教育の質の向上を図ることが求められる。

副校長・教頭は、各学年、各教科等、各学級、校内組織や校務分掌の全体を俯瞰し、計画の視覚化や共有化を進め、PDCAサイクルの円滑な循環を促す必要がある。視覚化・共有化した諸計画は、実施状況や改善点を書き込むなどしてPDCAのツールとして活用したい。

計画(P)の段階では、単元等のまとまりに着目し、学習者の視点か

ら「主体的」「対話的」「深い」とはどのような状況をいうのかを教職員で共通理解しておくことが大切になる。そうすることで、指導計画に織り込む目標や評価規準、学習活動の展開や教材、指導方法や指導体制、評価などの諸要素全体が子どもたちの学びを成立させる一連のものとしてつながり実際に機能することになる。

学習指導の展開の段階（D）では、学習指導要領の総則第3に示されている配慮事項（①ものの見方・考え方を働かせて学びを深める学習過程の重視、②言語環境の整備と言語活動の充実、③コンピュータ等や教材・教具の活用、④見通しを立てたり振り返ったりする学習活動、⑤体験活動、⑥課題選択と自主的・自発的な学習の促進、⑦学校図書館、地域の公共施設の利活用）や、総則第4に示されている指導方法や指導体制の工夫改善などの個に応じた指導の充実の手立て、更に教科等ごとに示されている「指導計画の作成と内容の取扱い」の各事項などが工夫改善の手がかりとなる。

C（評価）やA（改善点の洗い出し）、更にP（次の計画に生かす）に向かう段階では、それらがうまくつながっていない状況がよくみられる。副校長・教頭は、こうした過程について、スケジュール、使用するデータや方法、体制などをあらかじめ計画して取り組むよう教務主任等をはじめ教職員を指導したい。

なお、主体的・対話的で深い学びを実現するために、カリキュラムの設計や指導と評価に関する研究や他校での実践から手がかりを得ることも大切である。副校長・教頭は、教職員にこうした手がかりが様々にあることを示唆し、有用な情報の活用を促したい。そうした情報を調べたりそこから学んだりする手間はあっても、それが納得できる学習指導の工夫につながり子どもたちの成長へと還元される。

#### 4. 学校内外の資源をフル活用して子どもたちの学びを充実させる

学校には、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に役立てられる多様なたくさん資源がある。副校長・教頭は、常にこのことに意識を向けておくことが大切である。

人的な面で最も重要なのは教職員である。主体的・対話的で深い学びを成立させる授業は、教職員が専門的な知識や能力、経験などを出し合い協働して創り出していく必要がある。副校長・教頭は、指導計画の立案、教材研究、授業研究などに、学年団や教科部会、あるいはそれを超えた体制で取り組むことを促したい。同時に、日々の授業に工夫改善を凝らすことを研究ととらえ、研究と実践の一体的推進を図るよう研究や

## 「主体的・対話的で深い学び」

〈連載テーマ②〉 学習指導要領

研修に関わる校内組織を整え、重点を明確にして取り組むよう指導助言に努めたい。

物的な面では、学校の施設・設備や教材・教具などがある。子どもたちが主体的・対話的で深い学びを展開する上で十分な環境が整っているか、それらが活用されているかに目を向ける必要がある。例えば、学校図書館は読書センターであるとともに学習センターや情報センターとして整備され、各教科等の学習指導や教職員の教材研究等に活用されているだろうか。副校長・教頭は、学校の物的資源全体について子どもたちの学習の成立という視点から目のつけどころを考え、必要なものを整え活用するよう促していきたい。

さらに、地域にあるたくさん資源を把握し活用していくことが大事である。コロナ禍による一斉休業の経験も踏まえ、保護者と連携して家庭学習の在り方を考えることは重要である。また、地域に存在する図書館や博物館などの施設、公官庁や団体、商店や工場、大学、川や山などの自然など、すべてが教育活動に活用できる。地域資源のマップをつくることも考えられる。副校長・教頭は、地域に目を向け、それらを子どもたちに成長に生かすことの大切さを教職員に示していきたい。

#### 5. 教育改革の方向性を踏まえ自校の教育を確立する

副校長・教頭が役割を果たすためには、学校教育の方向性や在り方について広く情報を収集し自らの考えを深めておくことが大切である。

例えば、「主体的・対話的で深い学び」「個に応じた指導」と令和3年の中教審答申でいう「個別最適な学び」の関係はどうとらえればよいだろう。

子ども一人一人の「主体的・対話的で深い学び」の成立のためには「個に応じた指導」の充実が重要である。「個に応じた指導」の在り方を具体的に示すものが「指導の個別化」「学習の個性化」であり、これらを学習者の視点から表す概念が「個別最適な学び」である。

こうして考えると、学校教育改革の大きな流れは、社会の変化を背景に、子どもたちがよりよい人生や社会を自ら創り出す力を高めることを目指しているものであり、審議会答申はそれを具体化していこうとするものだとわかる。

副校長・教頭には、校長と十分意思疎通を図りながら、学校教育の改革の流れと自校の教育目標や主体的・対話的で深い学びの実現への取組との関係を整理し、教職員に説明したり指導力を発揮したりしていくことを期待したい。